

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏名 若槻 百美

主査 教授 福田 諭
審査担当者 副査 准教授 森松 組子
副査 教授 久住 一郎
副査 教授 生駒 一憲

学位論文題名

月経前不快気分障害症状に対する心理社会的因子の影響

(Influence of psychosocial factor on symptoms of premenstrual dysphoric disorder)

本研究では、(1)月経前不快気分障害(PMDD)評価尺度の妥当性・スクリーニング法の検討、(2)PMDD 症状に対する心理社会的因子の影響について検討を行い、(1)PMDD 評価尺度の項目 I の総点を用いたカットオフ値で簡便かつ適切にスクリーニングが可能であること、(2)幼少期のネグレクトが感情気質を介して PMDD 症状の重症度を予測することが示唆された。

審査にあたり、まず副査の森松准教授からカットオフ値を研究 2 で用いたのか、性的虐待からライフイベントへの影響が示す意味についての質問があり、申請者は「カットオフ値は用いていない。性的虐待があると負のライフイベントによるストレスが大きいと予想される。」と回答した。副査の生駒教授からは精神疾患で SSRI を内服しているものは症状が抑制されるか、結果をふまえて医師が介入可能な点についての質問があり、申請者は「症状が抑制されている反面、精神疾患の月経前悪化が PMDD 症状を修飾する可能性もある。虐待がある場合に認知行動療法などの検討が必要である。」と回答した。主査の福田教授からは研究 1 で複数の医師が診断した場合に診断が一致しない可能性、診療につながる研究計画について質問があり、申請者は「診断は一致するものとする。治療介入に関する研究は今後の課題である。」と回答した。最後に副査の久住教授から、判明している生物学的要因、気分障害と併存する疾患かについて質問があり、申請者は「セロトントランスポーター遺伝子多型、BDNF、脳機能の関連が示されている。気分障害と併存すると考える。」と回答した。

この論文は、PMDD の病態研究において高く評価され、今後の病態の解明において更なる飛躍が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。